

ムサビの教員が選ぶ

美大生におすすめの本

Recommended books for art students.

身体運動文化研究室

森敏生教授

『映像文化論の教科書：運動としての映画、映像としてのスポーツ』

鬼丸正明 著ほか，青弓社，2025



著者の鬼丸正明さんは、本学の文化総合科目I類の「身体文化に関する科目群」において「スポーツ映像論」を担当されていました。受講生で教室がいっぱいになる人気科目でした。ご本人の病気で声帯を失っても人工音声で講義を継続され、コロナ禍でも大変苦勞しながら授業を担当されましたが、残念ながら2022年にお亡くなりになりました。

本書は、鬼丸さんによる本学の講義と一橋大学での講義「スポーツと映像文化」から生まれたものです。鬼丸さんが若い頃からの研究仲間だった一橋大学名誉教授の坂上康博さんが鬼丸さんの13回の講義を可能な限り忠実に見事に編集して甦らせました。その第1講で鬼丸さんは、“＜運動としての映像＞という視角は、現在主流になっている＜物語としての映像＞という映像の見方に対する挑戦であり、また。スポーツとの共通性を＜運動＞に求めようとする冒険的な試みでもあります。”と語っています。

本学のみなさんに、13回にわたる鬼丸さんの「冒険的な試み」—そこにはたくさんさんの映像作品も紹介されています—をたっぷりと味わってほしいと思います。

ムサビの教員が選ぶ

美大生におすすめの本

Recommended books for art students.

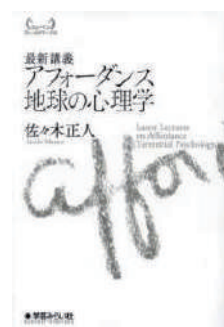
身体運動文化研究室

森敏生教授

『最新講義アフォーダンス地球の心理学』

= Latest lectures on affordance terrestrial psychology
(ヒューマンフィールドワークス)』

佐々木正人，学芸みらい社，2024



『生態学的知覚システム』を著したJ. ギブソン。そのキーワードが「アフォーダンス」です。この「アフォーダンス」を日本に色んな角度から紹介したのが著書の佐々木正人さん。佐々木さんの様々な著作では芸術とスポーツや身体運動を題材に「アフォーダンス」を論じています。本書は、東京大学を退官したあと、多摩美術大学の客員教授になった佐々木さんの7つの講義をおさめたものです。なので、佐々木さんが色んな著作に著してきた内容をコンパクトにダイジェストで読むことができます。建築、絵画、写真、プロダクト・デザインに造形された「アフォーダンス」が、トップアスリートだけが知りえる「アフォーダンス」が、視覚障害者をナビゲーションする「アフォーダンス」が語られています。本書に触発されて、皆さんも私たちの身体を囲んでいることの意味を探索してみてください。

ムサビの教員が選ぶ

美大生におすすめの本

Recommended books for art students.

身体運動文化研究室

森敏生教授

『自在化身体論：

超感覚・超身体・変身・分身・合体が織りなす人類の未来』

稲見昌彦，北崎充晃，宮脇陽一，
ゴウリシャンカー・ガネッシュ，
岩田浩康，杉本麻樹，笠原俊一，瓜生大輔 著，
エヌ・ティー・エス，2021



本書の著者の一人である稲見雅彦氏は、（一社）超人スポーツ協会代表理事。この稲見氏が率いる「自在化身体プロジェクト」は文科省・科学技術振興機構の戦略的創造研究推進事業の一環として5年間のプロジェクト研究を展開しました。本書では、このプロジェクトの中心メンバーたちが、どんな関心からどのような研究をめざしているのかを存分に語っています。「自在化身体」って何？雲をつかむようなワードです。生まれ持った自身の身体、意のままに振る舞うロボット、はたまたバーチャル世界のアバターなど、物理的空間とバーチャル空間を縦横無尽に繋いでいくつもの身体を自らのものとして自由自在に使いこなす。そんな将来の可能性が記されています。そのとき、私たちはどんな身体を生きることになるのでしょうか。私たちの心はどのように変わるのでしょうか。最先端の科学技術研究者たちが語る未来の身体像はどのように受容されるのでしょうか。こうした問いを抱きながら読んでみてください。